

意地でも日刊

スペイン音楽の旅

2018.6.30 | vol.3
井上 鑑 Akira Inoue

第三号 サラゴサ初見参

ビ ルバオから約250キロ。集団行動十バス移動なんて吉田兄弟ツアー以来のことです。不思議な感覚だけでも、身を任せれば普段あまり聞くことの出来ないお話を聞けて学ぶことも多い。メンバーの中には父、井上頼豊と供に一九六〇年代に一ヶ月間中国公演旅行を共にしたという方までいらっしやって、当時子供だった僕には全く知り得なかったエピソードに驚かされる経験をした次第。

緑深く雨も多いと言うバスクからアラゴンに入ると景色も気温も変わってくる。赤土、岩山、畑なのか空き地なのかよくわからない平地が延々と続くのだ。

サラゴサの大聖堂はアラビックな意匠も残る美しい建物だけれども、街そのものはいささかピントが甘い印象だった。河に沿って広がる街、実は東京だってそのジャンルに含まれる訳だが、僕的ランキング上位はプラハ、キエフ、バース、松本、そして特別枠でロンドンかな？

サラゴサはその魅力を一目で納得するには至らず。いつか得心できる日が訪れん事を願うばかりである。

大聖堂



川沿いのショウウィンドウ